

「双京構想」に関する有識者懇話会 概要

1. 日 時 平成26年8月20日（水）午後3時～午後4時50分

2. 場 所 ホテル京阪 京都 3階 菊の間

3. 有識者（50音順・敬称略）

所 功 京都産業大学名誉教授、公益財団法人モラロジー研究所教授

中村 宗哲 塗師

芳賀 徹 国際日本文化研究センター名誉教授、東京大学名誉教授

冷泉 貴実子 公益財団法人冷泉家時雨亭文庫 常務理事・事務局長

4. 概 要

- これまでにいただいた有識者意見のとりまとめとして、「双京構想の実現に向けた考え方と取組内容について（案）」について議論いただき、承認された。
 - その他、以下の御発言があった。
 - ◆ 京都の学問や文化など様々な分野の著名人や国会議員に賛同してもらおうよう取組をひろげていくのがよい。
 - ◆ 皇室ゆかりの美術品の展示や産業振興などに皇室が関わって来られた歴史の紹介など、多くの市民が皇室を知る機会につながる取組を行うとよい。
 - ◆ 京都迎賓館は、国の施設であり、国賓・公賓を接遇する主な目的を有しているが、今以上に活用できるよう検討を提案してはどうか。
 - ◆ 迎賓館と御所は目的の異なる施設であり、前段階で色々な取組もあるだろうが、最終的には御所を活用した大々的な儀式を行うべき。
 - ◆ 現在皇居で行われている近代以降の儀式・行事は、京都でなくても実施できる。京都でしか実施できない明治維新前に御所で行われていた伝統的な儀式・行事を復活させるのがよい。文化的な要素を全面に出した取組であれば、広く理解が得られるのではないか。
 - ◆ 数年後の東京オリンピック・パラリンピックなど大きな節目にタイミングを合わせ、皇室にゆかりのある伝統文化をアピールする事業ができればよい。
-

双京構想の実現に向けた考え方と取組内容について（案）

1 考え方

双京構想の実現に向けては、一つ一つ実績を重ね、京都にお住まいいただける環境を整えていくことが大切であり、次の考え方に沿って取組を進めていくべき。

- ◆ 双京構想を、京都のみならず全国の人々に知っていただき、皇室の方々に京都でもご公務を行いお住まいいただきたいとの願いを、京都から日本全体へと広めていくこと。
- ◆ 景観整備等、文化都市としての佇まいを大切にし、皇室の方々をお迎えするのにふさわしいまちづくりを進めること。
- ◆ 皇室の方々がご出席される国際会議等の京都開催や政府への京都での宮中行事の実施の働きかけなどにより、皇室の方々が京都へお越しいただく機会を増やし、1週間、そして1か月間という長期のご滞在へとつなげ、将来的にお住まいいただけるよう取り組んでいくこと。

2 取組内容

～京都における取組として～

- ◆ 「京都の未来を考える懇話会」メンバーをはじめ有識者などによる双京構想の発信や講演会の開催などあらゆる機会を捉えて、京都内外で双京構想の実現への機運の醸成を図っていくべき。
- ◆ 景観資産の保全・再生・創造、歴史的風土の保存・活用などにより京都らしい品格を高める取組を推進し、皇室の方々をお迎えするのにふさわしいまちづくりを進めていくべき。
- ◆ 皇室の方々がご出席される国際会議をはじめとする様々な催しが京都で開催されるよう取り組むとともに、「京都の未来を考える懇話会」など各種団体から、政府に対し双京構想の実現に向けた取組を要望していくべき。

～政府への働きかけ～

- ◆ 皇室で行われているご公務は実に多種多様であるが、中には東京だけでなく、むしろ京都で行われたらよりふさわしいことも含まれているようにみられるため、そのようなご公務を京都で実施され、皇室の方々が京都へお越しいただける機会をこれまで以上に増やしていただくよう政府に働きかけていくべき。

- 京都に御所があること、和風のおもてなしが可能な京都迎賓館があることを踏まえ、東京で行われているご公務の一部、例えば、国賓等のご接遇や園遊会、叙勲者の拝謁行事、歌会始、講書始などの文化的な行事の一部を京都で実施いただくことを要望すべき。
- 日本文化の再生のため、明治以降行われなくなった五節句（節供）など伝統的な宮中行事を、古式に則って京都で復活していただくことを要望すべき。
- ◆ 京都で皇室の方々のご公務などが増えれば、長期にご滞在いただくための施設の整備が必要になってくるため、それに向けて長期的な展望のもとに検討を進めていただくことについて、合わせて政府へ働きかけていくべき。